



資母っ子

13号 R2.10.12

校訓『強く 正しく 美しく』

校是『ほんものはつづく つづけるとほんものになる』

学校教育目標『いのち輝く ほんものの人づくり』

食欲の秋・読書の秋・スポーツの秋・芸術の秋

朝夕めっきり寒くなってきました。祭りばやし聞こえる頃ですが、今年の秋祭りは自粛ムードで、取りやめにしている地区が多いようです。寂しい限りですが仕方ありません。また、今年は昨年よりも頑張るといきこんでいた但馬の小学生駅伝大会も中止になるなど、多くの行事が中止になっています。

学校では、秋の野菜収穫。9月末に、学校園のさつまいも堀り、1・2年のピーマン収穫体験を実施しました。昨年は採れた野菜を学校で調理して食べましたが、今年は難しい状況です。しかし、各学年ともにサツマイモは何とか調理して児童と共に試食したいと考えています。

10月1日・2日には、修学旅行を行いました。自然学校は、10月19日～21日に予定しています。また、6年生は学年PTA活動で10月17日に運動会を実施します。できる行事も充実させ、意義あるものにしていきたいですね。

資母っ子マラソン大会10月27日実施(予定)

子どもたちはマラソン大会に向けて、体育の時間はもちろん、中間休みに自分のペースで運動場を走っています。何周走ったか、記録を取って励みにしている学年もあります。今までよりも少しでも早く走りきれるように、練習しています。

当日の応援をよろしくお願いいたします。

PTA役員さん立ち番等お世話になります。



◇子どもたちに笑顔を

9月30日(水) 子どもたちのためにと豊岡市教育委員会で企画された、世界中の児童演劇祭で高い評価を得ているパフォーマンスカンパニー (to R mansion) のステージショーを鑑賞しました。

力を合わせて魅せる
アクロバティックな
ショー



映画の名曲に乗せて
カーチェイス



児童は、観客席から応援や掛け声、手拍子を送り、会場一体となって楽しんでいました。多くの児童の笑顔が見られた1時間でした。豊岡市出身の方がメンバーとしておられて、身近に感じていたようです。子どもたちに笑いと笑顔を届けていただきました。

◇修学旅行：10月1日（木）・2日（金）広島方面 『コロナ禍の中、感染予防をしながら実施しました。』

姫路からの新幹線は、一両貸し切り状態で、安全に広島に向かうことができました。広島平和記念公園も到着した時には、他の修学旅行生があまりいなくて、閑散としていました。こんな状況は初めてでした。平和セレモニーは、原爆の子の像の前に集い、折鶴をささげることをメインにして、簡素化して行いました。



原爆（リトル・ボーイ）

昼食をとり、班別学習は、各班とも計画に沿って見学し、記念碑等についてメモを取っていました。その後、全員で平和記念資料館を見学しました。

入場制限、消毒、体温チェックと、感染予防をしながらの見学でした。ここも、必要なことはメモを取り、見学していたので、時間が足りないくらいでした。そして、5歳になる直前に被爆された方の被爆体験講話を聞きました。原爆で腕と顔に火傷を負い、皮膚の移植手術などをした経験や母親の背中の大やけどの

話など、多くの体験を語っていただきました。児童は、放射能の恐ろしさや、戦争の悲惨さについて沢山のことを学んだと思います。

1日目の最後の活動、厳島神社へ。行きのフェリーは、他の修学旅行生がいて密集状態でしたが、船外で過ごすことでリスクを軽減しました。厳島神社の見学も人が少なく、ゆったりと説明を受けることができました。その後、買い物は5000円分のクーポン券を有効に使っていました。帰りのフェリーはほぼ貸し切り状態でゆったりできました。フェリーから中秋の名月が見られて、「綺麗」という声が多く上がっていました。

2日目は、又マジ交通ミュージアムを見学しました。20分程のサイエンスショーを楽しみ、乗り物の歴史と仕組みについて学習をしてきました。そして一番楽しみにしていたみろくの里では、ミールクーポンでの昼食後、ジェットコースターなど遊具を楽しみました。昼一番でみろくの里に着いたので、貸し切り状態で、何度も同じ遊具に乗っていた児童もいました。

感染予防をしながら、ルールを守り、仲間と協力し、笑顔がいっぱいの修学旅行でした。

保護者の皆さま、健康管理、準備、見送り、お迎えありがとうございました。おかげで、無事修学旅行を終えることができました。ありがとうございました。

◇米作り体験・・・3・5年生が脱穀作業を手伝い



稲を運んでいます

ることなく、終わることができました。今回も、よく働きました。お米を作るのに、たくさんの過程があり大変であることを実感したようでした。

10月7日（水）台風が来る前にと、急ではありましたが、「あした」の霜倉社長と打ち合わせて実施しました。大型のコンバインで脱穀を行いました。稲が干してある稲木から、コンバインまで運ぶ作業と、脱穀した後のわらをトラックに積む作業とに別れて手伝いました。最後は、落ちた稲穂を拾って、コンバインの中に突っ込んでもらいました。

話をよく聞いて、ケガをす



わらをトラックに積み込み